



Title	第6回 アンコールワット国際日本語教育セミナー参加報告書
Author(s)	下本, 有美香
Citation	日本語講座年報. 2025, 2023-2024, p. 63-65
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/102685
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

【海外交流】

毎年、春と秋には、海外に留学したり、日本語の教師として活躍してきた仲間が、大学に戻ってきて賑やかになります。また最近は、日本語教師として海外に行くだけでなく、海外の学会で研究発表をする人たちも増えてきました。

第6回 アンコールワット国際日本語教育セミナー参加報告書

下本 有美香

1. はじめに

本稿は、2024年9月7日～8日にかけてアンコール大学（カンボジア王国シェムリアップ州）にて行われた第6回アンコールワット国際日本語教育セミナーの参加報告である。今回は、開催国カンボジアをはじめ7か国（カンボジア、スリランカ、タイ、日本、ネパール、ベトナム、マレーシア）から日本語教育関係者が参加し、学び多い2日間を共にした。

2. アンコールワット国際日本語教育セミナー

本セミナーは、アンコール・ワットの町、シェムリアップを中心に活動を行うアンコールワット日本語教師会主催の国際セミナーである。アンコールワット教師会は、2007年に設立されて以来、国際セミナー（隔年で開催）の他にも年に2～3回の日本語教育セミナーや日本語コンクールを開催し、地元シェムリアップの日本語教育に大きく貢献している。

第6回の今回は、近藤彩先生（昭和女子大学）の基調講演や池田玲子先生（同）による教師研修を通して、異文化間コミュニケーションについて多くを学んだ。ケーススタディについての研修では、グループでの話し合いやロールプレイを通じて異文化接觸の際に生じる問題について理解を深めたり、日本で理論ばかり学んでいては到底体験することの出来ないであろう価値観を知ることができ、大変楽しかった。

表1 全体スケジュール 1日目

2024年9月7日	
9:00-9:15	開会式
9:15-10:05	基調講演
10:05-10:15	休憩
10:15-11:15	機関報告 第I部
11:15-11:25	休憩
11:25-12:25	機関報告 第II部
12:25-13:40	昼休憩
13:40-14:40	実践報告 第I部

14:40-14:50	休憩
14:50-17:30	教師研修
18:00-20:00	懇親会

表2 全体スケジュール 2日目

2024年9月8日	
8:30-8:40	開会式
8:40-9:40	実践報告 第II部
9:40-9:50	休憩
9:50-10:50	実践報告 第III部
10:50-11:00	休憩
11:00-12:00	実践報告 第IV部
12:00-13:30	昼休憩
13:30-14:30	研究発表 第I部
14:30-14:40	休憩
14:40-15:40	研究発表 第II部
15:40-16:10	教師研修
16:10-16:20	休憩
16:20-16:40	閉会式

3. 研究発表

本セミナーでは、機関報告、実践報告、研究発表の3つのセクションで発表者を公募していた。機関報告では、主にカンボジア国内の日本語教育機関がそれぞれの機関について紹介を行った。実践報告では、各国で日本語教育に携わる先生方がそれぞれの実践について発表されており、小嶋を取り入れた実践などユニークな取り組みを知ることができた。研究発表では、先生方の発表を拝聴し、様々な分野の研究を身近に感じることができた。各々発表は15分、質疑応答5分の計20分で、全部で25の発表があった。限られた持ち時間であったが、それぞれについて活発な議論が行われ、新しい視点を得ることができた。

筆者は、国際日本文化学園（シェムリアップ州）所属の日本語教師、クーン・ソチア氏と共同研究を行い、発表に参加した。発表タイトルは「クメール語を母語とする日本語学習者の誤用について」で、日東の今後の友好関係を願って、クメール語母語話

者であり、かねてより筆者の親しい友人であるクーン氏と共に1つの研究を完成させた。簡単なアンケート調査を元にした発表であったが、発表後は様々な先生方から「学習者、教師双方にとって有益な研究」「学習者が誤用を起こす理由がわかった」などありがたいお言葉をいただき、感激した。共に研究、発表に励んだクーン氏にはこの上ない感謝の気持ちでいっぱいであるし、研究成果を発表することの達成感、そしてそれが認められ、評価されるという貴重な経験を通して自信に繋げられた気がしている。筆者はクメール語はまだ入門レベルであるが、将来はこの研究をもっと進めていきたいと一つ目標が出来た。日本語教育の分野においてカンボジアに関する研究はまだまだ少なく、そんな中クーン氏と共にテーマを決め、議論を楽しめたのは大変ありがたい機会であった。



写真1：発表風景

4. 先生方との交流

海外の学会に参加すると自分の世界が広がる。筆者は昨年からマレーシア、タイでの国際セミナーにも参加しており、海外に出ていくことのありがたみを痛感している。

今回のセミナーでも、ただの大学院生の身でありながら、国内外の日本語教育現場で活躍されている先生方とお話する機会を得た。大先輩である先生方と直接お話するのはそれ自体が得難い経験であるが、先生方の実践やビリーフを伺うと大変刺激になり、

いつもわくわくする。各国の日本語教育事情や教育機関のお話も将来について悩んでいる自分にとって、様々な視野を提供してくれる。また筆者がまだ学生であるために、研究についてのお話をしてくれる先生もいらっしゃり、大学院で取り組んでいる研究についてヒントが得られたり、改めて将来について考えを巡らすことができたりと、学会で得た財産は計り知れない。

近年オンライン化が進み、部屋にいながら世界とつながることもできるようになった。国際セミナーも例外ではなく、オンライン参加も可能な研修や学会も多く出てきた。しかしそれでは得られないものがあるということを、今回の先生方との交流で改めて確認した。



写真2：国際セミナーポスター

5. さいごに

今回の国際セミナーでは、初めて発表者として出席したが、同時に以前よりお世話になっている国際日本文化学園の鬼一二三先生、先述のクーン氏のご厚意により運営側の仕事にも少し携わる機会をいただいた。会場では大忙しだったが、大変充実してお

り、学会というものをより一層理解する貴重な機会となつた。アンコールワット日本語教師会理事長の鬼一二三先生、クーン・ソチア氏には感謝してもしつくせない。いただいた経験を忘れずに、今後も日本語教育に携わる人間としてキャリアを積んでいく所存である。

これからも日本とカンボジアの友好関係、また同国での日本語教育が発展していくことを祈って本報告書を結びたい。

お世話になった皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



写真3：参加者集合写真